

衆生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2014 年 5 月 1 日 発行
(通巻 461 号)

現代座レポート No. 58

- ・『約束の水』 上演へのご協力ありがとうございました (1)
- ・『約束の水』 公演大雪騒動記 (2)
- ・会館をつどいの場に (3)
- ・第 13 回定期総会の報告 (4)
- ・第 13 回定期総会～活動計算書 (5)
- ・NPO 現代座を支える人々 第十五回 塚田善久さん (6)
- ・『武蔵野のうたが聞こえる』の構成内容 (7)
- ・お知らせ／新規・継続会員・寄付者のお名前 (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX042-381-6987



『約束の水』舞台。

公演日	開演	入場者	感想文
2/13(木)	19:00	52	14
2/14(金)	14:00	45	14
	19:00	30	13
2/15(土)	14:00	46	17
2/16(日)	14:00	101	32
2/17(月)	14:00	86	20
		360	110

入場者数

『約束の水』上演へのご協力
ありがとうございます

現代座ホール二月十三日から十七日までの『約束の水』公演は例年になく大雪に襲われ、十四・十五日は市内の交通機関も止まりました。一時はどうなることかと思いましたが、現代座サポーターズの皆さんをはじめ、地域の方々、会館利用者の方々の献身的な協力で、五日間六ステージが無事終わりました。本当にありがとうございました。

◆共感の声

『約束の水』は二〇〇四年から二〇〇九年にかけて、東京、神奈川、長野、埼玉、北海道で五九回上演された作品です。今回の公演ではお芝居のありがたさをあらためて教えられました。

お芝居は身近な共感を通して自分たちのあり方を一体になって確認する芸術です。丁寧な感想文が一〇通も寄せられました。このうち五八通は六〇代、七〇代の方々で、まるで自分の人生を重ねてご覧になっているようで、胸を打たれます。

捨てられたふるさとで生き抜こうとする主人公の姿が、震災でふるさとを失った人々の姿と重なるのか、あらためて現代が忘れてしまった「水」と「緑」を取り戻さなくてはとする感想が多くありました。

今回の出演者と照明、音響、道具方の皆さん。



◆大切な財産として

これだけの装置や音楽を必要とする作品は簡単に制作することはできません。二〇〇四年にボランティアとして映画美術監督の出川三男さんが舞台装置プランと道具製作の指導をしてくださり、岡田京子さんが作曲してくださって実現したものです。そして今回の出演者、照明、音響、道具製作、ビデオ撮影の皆さんもボランティアで協力してくださいました。

この作品はNPOが生んだ大切な財産として繰り返し上演できるように努力したいと思います。(木村快)

『約束の水』公演大雪騒動記

◆『約束の水』公演は二月十三日(木)の夜の公演から始まりました。滑り出しは順調でした。お客さんの反応に出演者も心が動き、とてもいい公演になりました。

◆二日目の十四日(金)、天気予報は雪でした。昼公演の前には雪がどんどん降ってきました。キャンセルの電話もかかり始めました。でも、その中をお客様は来てくださいました。「雪だから早めに出たのよ」と特に年配の方は早くから会場にいられたのです。昼公演の幕は無事に上がりました。

公演中も雪はどんどん降り積もります。公演が終わって帰ろうとしたお客さんは、あまりの雪にびっくりです。でも現代座の前の道はきちんと雪かきがしてありました。受付の手伝いに来てくれた「現代座サポーターズ」のみなさんが公演中に雪かきをしてくれたのです。



◆二日目夜の公演です。雪はますます強くなり、「とても行けないので申し訳ない」と何人もの方から連絡が入ります。「公演はやるんですか?」という問合せもありました。ひとりでもお客様来てくださる以上、公演を

中止することは出来ません。不安の中、開演時間が近づきます。この日の受付の「サポーターズ」が雪の中を駆けつけました。そして、お客様は次々来られます。小学生の子どもを連れてたご夫婦、はるばる江東区から車で来られた方、ご近所の方々。なんと三〇人もの方が来てくれました。

劇場の中は熱気に包まれていました。そして外では昼に引き続き雪かきです。現代座2Fで通信制大学在籍者を支援する活動をしている高橋さんと学生さんが二回も雪かきをしてくれました。お客様は「忘れられない公演になりました」と言って帰っていかれたのですが、あとで聞くと、家にはたどり着いたけど雪でドアが開かなくて大変だった方や、結局帰れなくてカラオケ店で朝を迎えた方もいて、皆さん大変だったと思います。



◆そして三日目、十五日土曜日の朝を迎えました。電車が動かない可能性もあるので、出演者とスタッフは

前日から現代座に泊まり込んで公演に備えました。

私は近いので安心していたのですが、朝、送迎のために車を出そうと家を出たら、一面二十センチ以上もの雪が積もっていて、とても車を出すことは出来ません。表の道路も通

行不能でした。結局遅刻してしまいました。私以外のメンバーは時間通りに集まって、また雪かきです。

雪はやんだけど、バスは動きません。「途中まで来たけどあきらめます」という電話がかかっています。そんな中でも来てくださるお客さんが五〇人近くいて、この日の公演も無事に終了しました。

◆次の十六日は日曜日。やっとバスも動き出しました。昨日一昨日にいられた方から「今日行きたい」という電話が入ります。現代座ホールは基本は八十席。ここでスタッフがんばって客席を二列増やしました。結局この日は一〇一人の方がきちんと座って見てくださいました。でも、ちょっときつかったと思います。申し訳ありませんでした。

◆そして最終の日曜日。日曜日にお電話くださった方で月曜でも来られる方はこの日に来てくださったので、超満員のお客様の拍手の中で無事公演が終了しました。

本当にハラハラドキドキの五日間六ステージでした。宣伝やチケット売り、そして受付喫茶、雪かきと全てにわたって支えてくださった「現代座サポーターズ」の皆さん、本当にありがとうございました。

結局見に来られなかった方がたくさんいらして、「友達から聞いたけど、良かったんだってね。見たかった」と何人の方が言ってくれました。出演者の色々なスケジュールですぐには難しいのですが、絶対再演して、また皆様に見ていただきたいと思います。

その時には、どうか雪が降りませんように、台風が来ませんようにと祈るばかりです。(木下美智子)

会館をつどいの場に

緑町ふれあいサロン

十月から始まった「緑町ふれあいサロン」は毎月第三木曜日の午後一時半から三時半まで、現代座一階ロビーで行われています。高齢のご婦人達が中心ですが、時には



緑町ふれあいサロンのみなさん

ご夫婦で参加してくださる方や、小さい子供さんを連れて参加されるお母さんもいます。ご近所の方たちばかりなので、おしゃべりするだけでも盛り上がるのですが、隔月で女優の長谷川葉月さんが名作の朗読をしています。



今村ひで子の人形語り



長谷川葉月の名作の朗読

演しました。ひで子さんは旧四賀村（松本市）で認知症対応のグループホームに勤めながら、認知症について正しく知ってもらうために、おじいちゃんおばあちゃんの人形を手に持って語る活動をしています。

ホームでの日々の出来事をコミカルな信州弁で語りながら、認知症の人が何故そんな行動をするのかを分かりやすく話します。集まったお年寄りは大笑いしながら見てくれました。そして終わったあとは自分たちの介護体験の話もたくさん出てきました。

このサロンは民生委員の古明地（こめじ）さんを中心に緑町第二町会の女性の役員が世話役をしています。この活動を通して地域の色々な方と知り合いになり、いっしょに考えられることは、NPO現代座にとっても、大変ありがたいことです。いっしょにやり続けていきたいと思えます。

SPレコード雑談会

SPレコードとは昭和二年から三五年までに発売された一分間七八回転のレコード音盤のことです。そこには高度成長期以前の昔の「昭和」が詰まっています。わたしたちの国は都合の悪い歴史はほとんど忘れていきます。せめて昔を知っている人間だけでも、時には「ショーワ」を振り返って見たい。そんな雑談会です。ここ数回は二月に公演した『約束の水』の主人公が満蒙开拓青少年義勇軍参加者であったことから、満州（中国東北部）と日本人の関わりを歌った童謡・流行歌を聴いています。

有名な北原白秋作詞、山田耕筰作曲の『ペチカ』や『あわて床屋』は満州教育会からの委嘱作品で、満州在住日本人の子供たちが学校で習った歌です。

*開催日 毎月最終日曜日、午後2時〜4時半。

二月〜四月 活動日誌

- 一月 二九日「現代座レポート57号」発送作業
- 二月 一日「現代座サポーターズ」集まり
- 一三〜一七日「約束の水」公演
- 二三日「SPレコード雑談会」定例会
- 二七日「緑町ふれあいサロン」
- 三月 二日 川崎平右衛門プロジェクト定例会
- 二〇日「緑町ふれあいサロン」
- 緑町第二町会役員会
- 一九日「川崎平右衛門」出演者打合せ
- 三〇日「SPレコード雑談会」定例会
- 四月 一四日 川崎平右衛門プロジェクト定例会
- 一〇日 NPO現代座第十三回定期総会
- 三日「平右衛門」上演サポーター説明会
- 二四日「緑町ふれあいサロン」
- 二七日「SPレコード雑談会」定例会

現代座ホール

- 二月〜三月 劇団「希望舞台」稽古
- 三月一三〜一六日 東工大・実践女子大学演劇部公演
- 三月二六〜四月二日 劇団「きなせ企画」稽古
- 四月八〜一二日 ジャグリング&音楽集団「ながめくらしつ」公演

三階小ホール

- 三月一二日 IVSテレビ撮影

定期使用 二階サロン

- 毎日曜日 早稲田ラジオスクール（学生支援）
- 毎月曜日 子どもクラブ・バンビーン
- 毎水曜日 熟年パソコンサークル
- 隔木曜日 ipad熟年講座

NPO現代座第十三回総会の報告

四月二十日(日)午後二時から現代座二階で「NPO現代座第十三回定期総会」が行われました。正会員十九人中十五人の出席でした。

◆二〇一三年度も会員の皆様の会費によって支えていただきました。左ページの「活動計算書」にありますように二百一十万円の会費をいただきました。また、会費と合わせて六十二人の方からご寄付をいただきました。本当にありがとうございました。

◆上演活動

①五月十六日から二十一日まで「**出会いの街**」を現代座ホールで上演しました。九ステージの公演で五三一人の方に見ていただきました。

この公演では小金井市の「東日本震災復興応援プロジェクト」で販売しているおせんべいを買って、お客様にお土産として持ち帰りいただく形で、ささやかですが被災地支援をさせていただきます。

②「**蒼い空・友の呼ぶ声**」は六月二日に長野県阿智村の清内路地区で公演。人口七〇〇人の小さな村だったところです。体育館に実行委員会が手作りで客席を作りました。音楽は作曲担当の福沢達郎さんが特別出演で、ピアノの生演奏で上演しました。

六月三日は佐久市での公演。少人数の実行委員での取り組みは大変でしたが、公演は大成功で、黒字は現代座に寄付してくださいました。

③二〇一四年二月十三日から十七日は現代座ホールで「**約束の水**」を六ステージ上演しました。目標通り三六〇人の方に見ていただくことができました。(一、二面参照)

④「**遠い空の下の故郷〜ハンセン病療養所に生きて〜**」は東京都内で、お寺の法要や人権研修など三カ所で開催していただきました。松本真理子さんのアコーディオン演奏と木下美智子の一人語りという新しいスタイルで挑んでいます。

◆セミナー講座活動

「SPレコード雑談会」は三年目に入り、今年度もほとんど毎月行いました。明治、大正、戦中戦後の様々な歌を聞いて時代を語り合う集いです。(三面参照)

「劇場講座」は四回開催しました。
「白黒シネマの会」を始めました。

◆国際協力支援事業

日系ブラジル人は現在150万人と言われますが、戦前の日本政府による移住国策の実態が不明なため、日系人のアイデンティティを確立する上で大きな壁となっています。現代座は一九九四年以来、国際協力支援事業としてブラジル移住史の資料発掘に協力しています。

二〇一三年八月、同時代社の協力によって、二〇年来の懸案であった『**共生の大地アリアンサ**』(A5判三五〇ページ)を出版することが出来ました。

アリアンサ移住地の歴史は日本側の移住政策を明らかにする歴史でもあるので、ぜひ多くの日系人に読んで欲しいと、ブラジル・サンパウロ市で『共生の大地アリアンサ』のポルトガル語版出版の準備がすすめられています。

すでに国際交流基金の翻訳助成も決まり、十月には出版できるよう、急ピッチで翻訳が進められているとのこと。

また、二〇一三年度は日本力行会の依頼で、木村快による日系ブラジル人学生への講座として、「**ブラジルにおける日本力行会の活動の歴史**」を四回連続で行いました。

◆会館の活用

① 地下ホールと3F小ホール
四団体の公演と十二団体の稽古が行われました。

② 地元グループの定例活用
小金井熟年会の勉強会(毎週)。障がい児の放課後預かり事業「バンビーン」(毎週)。現代座のある緑町第一町会の「緑町ふれあいサロン」(三面参照)など。

③ 早稲田ラジオスクールによる通信制大学在籍者支援講座(毎週)。2Fに教育関係文献を集めた「教育文庫」の開設。

◆現代座会館のリフォーム

① 全館の電気配線設備を新しくしました。
② 地下ホール・事務所フロア・二階和室のエアコンを新しくしました。

③ ボランティア作業で2F集会室の床をタイルカーペットに張り替え、玄関も改装中です。

◆今年度の新作準備

シニアSOHO小金井と一緒に準備してきた「武蔵野のうたが聞こえる」の制作にかかります。(七面参照)

◆財政活動

二〇一三年度も専従職員を置かず、有償ボランティアの皆さんや、多くの方のご協力で活動してきました。

財政は次ページの活動計算書の通り、かなり改善されましたが、まだ累積赤字が残っています。今年度の活動の中で新しい広がりをつくり、乗り越えていきたいと思っています。

◆協力がスタッフを求めています

今度の「武蔵野のうたが聞こえる」の調査・台本制作まではシニアSOHOの塚田さん、織壁さんが中心になって進めてくださいました。これからが正念場です。いよいよ宣伝・道具制作・稽古現場のスタッフが必要になります。多くの市民の皆さんと協力しながら進めたいと思います。

2013年度 活動計算書

2013年3月1日から 2014年2月28日まで

特定非営利活動法人 NPO現代座
(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1 受取会費		2,110,000
2 受取寄付金		316,474
3 受取助成金等		
公共団体補助金	0	
民間助成金	0	0
4 事業収益		
①地域劇場づくり支援事業収益	2,691,000	
②制作上演事業収益	3,705,000	
③セミナー事業収益	275,100	
④国際協力事業収益	0	
⑤まちづくり事業収益	3,000	
⑥子ども健全育成事業収益	0	
⑦会報発行事業収益	0	6,674,100
5 その他収益		
受取利息	145	
雑収益	59,604	59,749
経常収益 計		9,160,323
II 経常費用		
1、事業費		
(1) 人件費		
給料手当	346,200	
(2) その他経費		
制作・準備費	670,370	
創造・上演費	681,436	
交通・通信費	1,417,724	
資料・印刷費	15,840	
消耗品費	1,676,081	
会報・HP経費	1,014,297	
その他経費 計	5,475,748	
事業費 計		5,821,948
2 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	0	
(2) その他経費		
通信運搬費	110,045	
消耗品費	360,155	
OA経費	444,241	
雑費	135,390	
光熱水道費	800,723	
租税公課	70,000	
家賃	1,200,000	
その他経費 計	3,120,554	
管理費 計		3,120,554
経常費用 計		8,942,502
当期正味財産増減額		217,821
前期繰越正味財産額		-524,008
次期繰越正味財産額		-306,187

当期において、その他事業は実施していません。

NPO現代座を支える人々

第十五回

塚田善久さん

記 武本英之

塚田 善久さん
(つかだ・よしひさ)

年配の推理小説好きの方なら分かるかも知れないが、松本清張の推理物を読んでいると、

事件が起こった地域の歴史に精通した「郷土史家」が登場して物語を面白く展開させたりする。ご紹介する塚田さんは小金井市公認の郷土史家である。もともと塚田さんご自身、その呼び名は面はゆいらしく、「歴史が好きだけ」と仰る。

「歴史は楽しい」という塚田さんは、昭和二十三年生まれの団塊の世代。大学時代は学内の史蹟研究会に所属、就職した金物関係の商社サラリーマンの定年を目前に「こらえきれずに」江戸文化歴史検定を取得。六〇歳で定年退職後、好きな歴史探索の道にまっしぐら。小金井史談会で名所旧跡見学会の幹事を務めたり、小金井公園の江戸東京たてもの園でボランティアをしたり。大卒後も毎年、研究会仲間とは各地で史蹟巡りを続けている。

そんな塚田さんが郷土の武蔵野台地を拓いた「川崎平右衛門」と出会うのは時間の問題だったろう。シニア世代の経験と知識を地域社会に生かそうと活動する

NPO法人シニアSOHO小金井にも入っている塚田さんは、当時この代表だった大橋元明さんから川崎平右衛門の存在を知らされる。お二人はNPO現代座で二〇一〇年四月に上演された「小金井小次郎」の朗読劇を御覧になられたが、心動いた大橋さんから「次は是非とも川崎平右衛門を現代座で」とご提案があったのである。

さすが動きが早い。翌月の五月、シニアSOHO小金井に「川崎平右衛門プロジェクト」が立ち上がり、リーダーに塚田さんが就いた。「歴史が好きだから」とみんなに言われまして」と塚田さん。当初、SOHOから五人、現代座から木村快さんと木下美智子さんが参加し、一緒に勉強会がスタートしたのである。古文書調べから始まり史跡巡りへ。途中、国学院大学の木野主計先生も加わり、月一回の勉強会は足掛け四年も続く。いよいよ今年九月に、木村快脚本による合唱構成劇として上演の運びとなる次第。この間、小金井第三小学校で塚田さん原作による朗読劇として小学生向けに上演、関係者は手ごたえをつかんだようだ。

塚田さんにとって川崎平右衛門の魅力とは何ですか。「今の世に存在があまりに知られていません。小金井小次郎は広辞苑に載っているんです。小次郎は博徒、一方の平右衛門は新田開発を実現させて名主から幕府の勘定吟味役までのぼりつめた人。差があり過ぎます。平右衛門の生き方をもっと知ってもらい、広辞苑に載るところまでいけるといいですね」と力が入る。現代座の木村快さんは「平右衛門は人の使い方をよく分かっていた人物だった」という。塚田さんによると「農民を代表する平右衛門はまず働く農民を仲間と考え、彼らの苦しみをよく知っていました」という。

平右衛門の時代に宝永大地震と富士山の噴火が起きる。約三百年後に同じ規模とされる3・11東日本大震災が起きた。平右衛門は挫折しかかった武蔵野新田の開発を、農民に希望を与えることで見事成し遂げたが、今のニッポンはどうか。平右衛門の成功の秘密を目の当たりに知るためにも、是非とも芝居に足をお運びいただきたい。

「歴史は面白いですよ」。塚田さんと話していると時間があつという間に経つ。「一介の名主の平右衛門がどうやって教育を受けていたのか。府中の大國魂神社の宮司に娘を嫁がせて親密な関係になっていますが、その方面から知識を得ていたのか。いろいろと想像するのが面白いですね」と話が尽きない。

現代座のお芝居は「小金井小次郎」以来、「ユーモレスク」、「約束の水」、「タクシードライバー物語」こは幸せ口番地、「出会いの街」、「友の呼ぶ声」等々、欠かさず御覧になつているという。「身近に感じられるお芝居ばかりで好きですね」とありがたいご感想。「言うだけでなく、実際に上演活動をされている。今のご時世に稀有なことじゃないでしょうか。できることがあれば私もお手伝いします。川崎平右衛門でいうと、府中に平右衛門の銅像があったり、小金井は負けています。しかし、小金井にはこの劇場があります。劇場がある現代座は小金井の財産です」と塚田さん。これ以上の締め言葉はありません。感謝。(了)



※このシリーズを担当している筆者の武本英之さんは専門紙「東京交通新聞」の編集局長。NPO現代座正会員でもあります。

災害復興の拠点・武蔵野新田

武蔵野のうたが聞こえる

NPO「シニアSOHO小金井」とNPO現代座は小金井市を含む広大な武蔵野台を拓いた川崎平右衛門という人物を調べるため、二〇一〇年に「平右衛門プロジェクト」を結成し、勉強会を続けてきました。平右衛門の業績を調べるうちに、武蔵野の開発は災害復興の目的で始まり、その成功は、平右衛門が農民の協同を組織したことであつたことがわかつてきました。

四年目を迎えた今年、作品の構成もまとまり、九月上演を目標に台本の執筆にかかります。物語の内容は次のようなものです。

富士山南東部に残る宝永山噴火口跡。



◆江戸中期、日本列島は一七〇三年の元禄大地震、一七〇七年の宝永大地震・富士山大噴火と、史上最大の災害に襲われ、農業は大きな打撃を受け、飢饉が続発します。元禄バブルでゆるみきつた幕府に復興を進める力はなく、事態は悪くなるばかりでした。

宝永大地震から九年後の一七一六年、享保元年に徳川吉宗が第八代将軍に就任しました。幕府の財政は崩壊寸前でした。吉宗は宝永大地震の津波で大被害を受けた和歌山藩主で、陣頭に立って藩を復興

させた経験を持っていました。

◆吉宗は世襲の役人に頼らず、大岡越前守忠相（えちぜんのかみ・ただすけ）を南町奉行に抜擢し、「享保の改革」をおしすすめます。この改革の最大の目玉が不毛の大地と言われた武蔵野台地を大食糧基地に変える事業でした。これを武蔵野新田（しんでん）開発と呼びます。現在の東京都杉並、練馬、北多摩から埼玉県南部にいたる広大な地域です。事業は困難を極め、十年たつてもいっこうに進まず、ついには二年続きの大凶作で餓死者が出はじめ、逃げ出す百姓が続発します。改革の目玉だつた新田開発は挫折の危機に直面します。

◆このとき、新田開発の最高責任者である大岡忠相は、一人の人物に目をつけていました。それは武士ではなく、平右衛門という一人の名主でした。大岡は代官の上坂政形に、押立村の名主平右衛門と協力して百姓救済に当たるよう指示します。平右衛門は小金井の一角に新田を拓き、粟を栽培しながら新田開発の成り行きを見守っていた人物です。

上坂政形の依頼を受けた平右衛門は、幕府からのお救い米が間に合わないを見て、飢饉に備えて自分の村に蓄えていた食料を「お救い米」ということにし、小金井橋へ運びます。そして小金井地域の名主と協力して飢えた百姓のために粥の炊き出しをはじめます。平右衛門は殺到する群衆を押しとどめ、子どもや女、老人を優先し、おだやかな笑顔で「まず粥を食え。それからお上のお救い米だ」と語りかけます。

粥をすすり、食料を受け取る群衆はいつのまにか笑顔にまつまれた集団に変わっていました。

◆こうした平右衛門の手際に、上坂政形は驚きます。飢えた百姓たちを安心させ、互いに弱い者を守ることによつて人間らしさを回復させる。困難な事業に必要な力とは押しつける力ではなく、人間に人間らしさを取り戻させる力だつたのだ。上坂は大岡忠相に平右衛門を武蔵野新田八十二カ村の世話役として推薦します。大岡も平右衛門に賭けてみよう

考えます。

◆大岡は幕閣の了承を得て、平右衛門に自分の思い通りの村づくりを進めてよいと伝えます。これは幕府としては異例のことでした。平右衛門はそれから十年の歳月をかけ、「自分たちの村は自分たちでつくる」方針で、男だけでなく、女や老人、子どもも含めた全体で助け合う村づくりを進めました。平右衛門は荒地でも育つ換金作物を普及させ、そのための肥料の確保や、凶作に備えた食料の備蓄は村の協同事業としました。そして協同の利益は村の催しや病人の救済にあてます。こうして貧しいときは貧しいなりに助け合うことによつて、豊かになる道を開いていきました。文字通り、村の自治を基本にした協同組合方式でした。

破綻しかつた武蔵野新田八十二カ村の開発は見事成功します。農民主体の村づくりは江戸史の中では極めて珍しい出来事です。「享保の改革」を推し進めなければならなかつた時代だつたからこそ許された奇跡でした。

◆心の喜びを大切にしたら平右衛門は、吉野からサクラの苗を取り寄せ、百姓支援の公共事業である扶食（ふじき）普請として苗を栽培し、玉川土手に植えさせました。これがやがて小金井桜と呼ばれ、歌川広重の浮世絵にまで描かれる江戸の名勝地となります。



作品を検討する平右衛門プロジェクト

お知らせ

遠い空の下の故郷

～ハンセン病療養所に生きて～

5月18日(日)

品川区・戒法寺 大施餓鬼会法要

共生の大地・アリアンサ

ブラジルに協同の夢を求めた日本人

木村快著 同時代社刊 (A5版 350ページ)



定価は3780円(税込み)で、書店でもネット通販でも購入できます。現代座では特別価格3000円(税込み)で販売しています。3000円と送料300円を振り込んでいただければ郵送します。

合唱構成劇

武蔵野台地をひらいた川崎平右衛門

武蔵野のうたが聞こえる

共同製作

シニア SOHO 小金井

NPO 現代座

脚本

木村 快

9月公演予定

公演のDVD・さし上げます

会員の皆様に2014年2月公演「約束の水」のDVDをさし上げております。

過去の作品でも、ご希望の作品をDVDにしますのでお問い合わせください。

現代座会館をご利用ください

◆地下ホール(地下2階吹き抜け)

空間は15メートル×12メートル×天井高5.5メートル。中ホール並みの吊り物、舞台装置、照明を設置できます。通常は客席部に80席を準備していますが、全面をワンフロアにすることもできます。

◆3F小ホール 舞台とグランドピアノ、客席40席。

◆2Fの集会室 20～30人。

◆1Fのロビー 15～20人。

これらの設備は地域の活動や様々な創造活動に使っていただきたいと思います。

使用料その他、お気軽にお問い合わせください。

NPO現代座スタッフ募集

いっしょに創造活動をすすめる仲間を求めています。

お芝居をつくる活動に参加してみませんか？

年齢は問いません。興味があれば誰でも参加できます。

- ◆芝居の裏方(大道具小道具の制作・衣装)、
- ◆芝居の出演者、
- ◆制作宣伝活動、チラシ等印刷物作成、写真撮影、
- ◆会館管理、経理事務。

気楽に見学においで下さい。

【編集後記】大雪のため材料置き場の屋根が壊れ、後始末が大変でした。その上、定期総会の準備や決算作業に追いまくられ、おちついて編集できませんでした。とにかく人手が欲しいです。(木村快)

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費(現代座レポート購読料を含む)

一般会員 3,000円

協賛会員 10,000円(1口以上)

郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座